

金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

社会連携研究成果報告書 2020

人に夢を。 地域に活力を。 ビジネスに未来を。

金沢美術工芸大学の 創造力を、 あなたの事業に お役立てください。

金沢美術工芸大学では、社会連携センターを拠点に、広く企業や研究機関・公共団体などの連携活動を推進しています。

POLICY 理念

金沢美術工芸大学は社会貢献を、教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、地域連携・産学連携を通して積極的に社会貢献を行います。

1. 本学の持つ美術工芸分野の専門知識や技術、社会連携で得られた成果を広く社会に還元します。
2. 地域の産業と積極的に連携を図り、地域社会の活性化に貢献します。
3. 社会との連携活動を体験することで、より実践的に社会に寄与できる人材を育成します。

SYSTEM 活動体制

テーマの規模や内容、状況に応じて、様々な研究方法・スタイルを準備しています。詳細はお問い合わせください。

研究制度

共同研究

企業や教育機関より研究者・研究経費等を受け入れ、共通の課題について対等な立場で研究を行う制度

受託研究

企業等から委託を受け、委託者の負担する経費で研究を行い、その成果を委託者に報告する制度

研究体制

プロジェクト型（課外活動型）

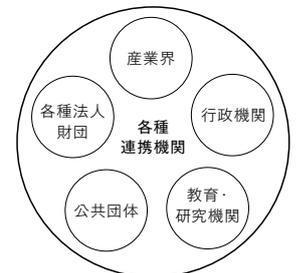
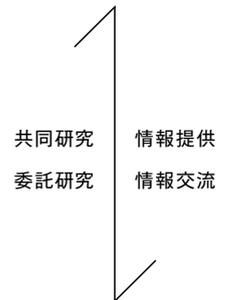
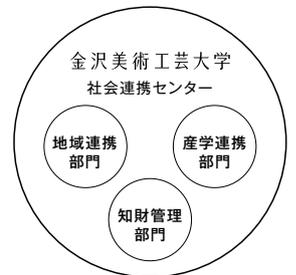
教員の指導により研究を推進。学生の新しい視点での発想、現実性の高い成果が期待できます。

プロフェッショナル型

教員との研究。ハイレベルで実践的な研究成果が期待できます。

NETWORK 社会連携

他大学・研究機関とのパートナーシップを深め、実現性の高いハイクラスの研究を推進します。



FLOW

活動の流れ

以下のような、求められる課題や相談に対し、よりよき成果をめざして、確かな体制と綿密プロセスをベースに研究を進めています。

- 商品の企画・開発にデザインを利用したい
- CI・ブランド開発にデザインを活用したい
- マーケティングにデザインを活用したい
- 店舗・施設の開発にデザインを活用したい
- 伝統工芸の専門技術を商品開発に活用したい
- 美術（芸術）分野の専門知識を商品開発に活用したい



- ・ 研究目的
- ・ 研究体制・研究方法
- ・ 研究期間・研究予算
- ・ 研究成果予測
- ・ その他事務手続き等



- ・ 経費明細
- ・ 支払条件等



- ・ 知的財産権の取扱い
- ・ 研究成果の公表時期
- ・ 機密保持に関する取り決め等



- ・ オリエンテーション
- ・ 調査
- ・ 研究・デザイン制作等
- ・ プレゼンテーション
- ・ 試作
- ・ 製品化等

事例に応じた研究内容をご用意できます。



- ・ 研究成果報告書の作成
- ・ 特許等の出願・契約等の締結

FIELD

活動領域

美術・工芸・デザインから芸術学まで、本学に蓄積された有形無形の資産をベースに、気鋭のプロフェッショナル達がハイレベルの研究活動を推進します。

本学の教員は、それぞれが独立したプロの作家、デザイナー、研究者です。活躍する分野はもちろん、年齢、経歴、ネットワークも様々な人材が、才能にあふれる学生たちとともに連携事業の研究活動を推進します。

美術系

日本画 / 油画 / 彫刻 / 芸術学

デザイン系

視覚デザイン / 製品デザイン / 環境デザイン / ファッションデザイン

工芸系

陶磁 / 漆・木工 / 鋳金・彫鍛金 / 染・織

専門領域分野

ヴィジュアルコミュニケーション
 広告デザイン
 サインデザイン
 映像・メディアデザイン
 Web デザイン
 パッケージデザイン
 ユニバーサルデザイン
 インターフェイスデザイン
 情報機器デザイン
 輸送機器デザイン
 家具デザイン
 生活関連用品デザイン
 都市計画デザイン
 建築デザイン
 インテリアデザイン
 ディスプレイデザイン
 ランドスケープデザイン
 ファッションデザイン
 テキスタイルデザイン
 陶芸
 漆芸
 木工
 彫鍛金
 鋳金
 染織
 モニュメント
 壁画
 材料・修復

過去 5 年間の社会連携研究数

年 度	総 数	地域連携事業	産学連携事業	連携協定事業
2016 (H28)	34	16	11	7
2017 (H29)	33	11	16	6
2018 (H30)	32	21	8	3
2019 (R1)	29	13	11	5
2020 (R2)	16	8	7	1
計	144	69	53	22

※報告書掲載数は複数年に渡る事業も含む。

141 >> 148

141	かなざわ時計	6
142	「金沢市はたらく人にやさしい事業所」 受賞ロゴマーク制作	7
143	子ども消防クラブ制服の新デザイン提案	8
144	関西圏へ魅力を伝える 新たなデザインポスターの提案・制作等	9
145	谷口吉郎・吉生記念金沢建築館 第3回企画展デザイン 「金沢の子カラ―重層する建築文化―」ポスターと冊子デザイン	10
146	金沢「冬の風物詩」映像制作	11
147	かなざわエコフェスタ 2020	12
148	石川県立盲学校 「触れてみる彫刻展」	13

141

金沢市の市役所前の大型サイネージにて、学生の制作した時刻をお知らせする映像が毎時きっかりに流れる。映像は20秒ほどで、20パターン（学生の人数分）が繰り返し放映される。映像は必ず開始10秒で時刻を表す数字が出現するようにデザインされている。新型コロナウイルス第一波の中で行われたため、授業はすべてオンラインで行われた。

かなざわ時計



【委託者】
金沢市 都市政策局 広報広聴課

【期間】
2020年5月—6月
放映期間
2020年9月1日—2021年3月31日

【研究体制】
プロジェクト型

【担当教員】
下浜 臨太郎 講師 デザイン科視覚デザイン専攻

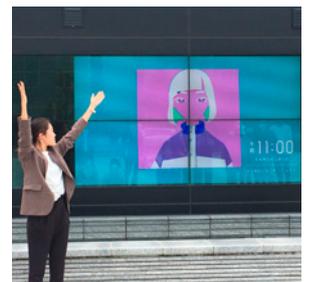
【参加学生】

荒井 涼香	視覚デザイン専攻2年
池田 楓太	視覚デザイン専攻2年
石井 美優	視覚デザイン専攻2年
伊藤 愛理	視覚デザイン専攻2年
伊東 さと	視覚デザイン専攻2年
植木 鼓	視覚デザイン専攻2年
江森 敬大	視覚デザイン専攻2年
尾田 千恵美	視覚デザイン専攻2年
甲佐 優莉佳	視覚デザイン専攻2年
古家後 はるか	視覚デザイン専攻2年
永田 幸	視覚デザイン専攻2年
根上 大成	視覚デザイン専攻2年
東 百合恵	視覚デザイン専攻2年
松本 梓	視覚デザイン専攻2年
三橋 洋斗	視覚デザイン専攻2年
宮上 聖菜	視覚デザイン専攻2年
山元 太陽	視覚デザイン専攻2年
山本 千穂	視覚デザイン専攻2年
行本 美晴	視覚デザイン専攻2年
米原 葵衣	視覚デザイン専攻2年

【開発日程】

2020年

5月18日	練習制作ワークショップ01
5月25日	練習制作ワークショップ02
5月26日	時報制作開始
6月12日	時報プレゼンテーション



学生の制作した作品



学生の制作した作品

142

金沢市では、平成 24 年度より、仕事と生活の調和と労働環境の改善等に積極的に取り組み、具体的な成果を上げている事業所を「金沢市はたらく人にやさしい事業所」として表彰しており、その取組を表すロゴマークを今回制作した。金沢をイメージした梅鉢の中央に、やさしい事業所であることを表すハートマークを組み合わせている。今後、表彰事業所によるロゴマークの活用と併せ、その取組事例を広く発信し「働きやすいまち金沢」に向け、働きやすい事業所の更なる増加につなげていく予定。

「金沢市はたらく人にやさしい事業所」 受賞ロゴマーク制作



金沢市 はたらく人に やさしい事業所



金沢市
はたらく人に
やさしい事業所



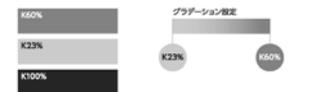
カラー設定



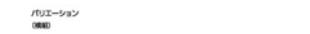
金沢市
はたらく人に
やさしい事業所



金沢市
はたらく人に
やさしい事業所



モノクロ設定



バリエーション・使用基準

【委託者】
金沢市 経済局 労働政策課

【期間】
2020年4月—10月

【研究体制】
プロフェッショナル型

【担当教員】
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【協力】
石川県ビジュアルデザイン協会

【開発日程】

2020年

4月27日 学内社会連携会議にて業務受け入れ確認及びオリエンテーション

4月末～5月末 依頼方法の検討と調整

6月3日 デザイナー3名へのオリエンテーション

7月5日 デザイナー3名よりデザイン案提出

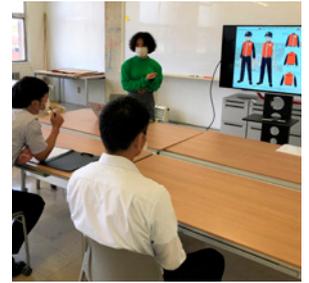
7月27日 市役所内にて投票にて検討

9月14日 市役所にて発表

9月22日 マニュアル納品

143

子ども消防クラブ制服の新デザイン提案



デザイン案プレゼンテーション



試作検証

採用されたデザイン案とロゴマーク

【委託者】
金沢市消防局

【期間】
2020年4月—2021年3月

【研究体制】
プロジェクト型

【担当教員】
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】
日下部 亜希 視覚デザイン専攻4年
表 ちさと 視覚デザイン専攻3年
山本 千穂 視覚デザイン専攻2年

【協力】
インターリンク金沢株式会社

【開発日程】

2020年

4月27日 学内社会連携会議にて業務受け入れ確認

5月15日 ZOOMにて消防局より学生へオリエンテーション

5月28日 消防局と今後の進め方について確認

5月末～6月下旬 協力会社調整

6月29日 消防局とインターリンク金沢で制作について協議

7月3日 小松マテールにて素材確認

7月10日 消防局へロゴマークデザイン提案

8月14日 ユニフォームラフ案作成

8月26日 消防局へロゴマークデザイン提案し、方向性確認

9月10日 ユニフォームラフ案作成

9月30日 消防局へユニフォーム + ロゴマークプレゼンテーション

10月16日 消防局関係者にて提案した3案で投票

10月19日 ユニフォーム1案に決定

12月4日 ユニフォーム試作提案

12月末～3月中旬 仕様調整、試作スタート

2021年

3月20日 最終デザイン試作納品



完成品



参加した学生3名

144

北陸新幹線の敦賀延伸を見据え、関西圏に訴求するデザイン性の高いポスター制作依頼を受け、金沢の文化や歴史を感じさせる品と質を重視したデザインポスターを、金沢文化を代表する茶屋街のひとつである「ひがし茶屋街」と、金沢市内の四季を感じられる「春夏秋冬」を表現した2種類制作した。関西圏はもちろん、国内外の旅行博や観光キャンペーンで掲示することで、金沢の更なる魅力を発信し、観光誘客の推進に繋げる予定。

関西圏へ魅力を伝える 新たなデザインポスターの提案・制作等



モデル撮影の様子



モデル撮影の様子

【委託者】

金沢市観光協会

【期間】

2020年4月—11月

【研究体制】

プロフェッショナル型

【担当教員】

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【協力】

株式会社 電通西日本 金沢支社

【開発日程】

2020年

4月16日 市役所担当課にて
オリエンテーション

4月末～5月末
依頼方法の検討と調整

6月8日 デザイナーへの
オリエンテーション

7月9日 市役所へデザイン3案提案

8月13日 市役所内よりデザイン案の
方向性確認

9月4日 金沢市文化ホールにて
モデル撮影

9月10日 部分修正、レタッチ作業
スタート

10月8日 最終校正確認

10月29日 ポスター納品

12月中旬 記者発表



モデル撮影の様子

145

金沢は、藩政期・明治・大正・昭和・平成・令和にわたって伝統的建築の保存・再生を積み重ねながら、同時に新しい建築を各時代に合わせてつくってきた独特な建築文化がある。今展示会は、金沢を彩る各時代の代表的な建築 80 件を、写真を中心に図面や模型などを交えてご紹介し、金沢の環境の魅力と価値を確認し「金沢のチカラ」を発見することを目的としている。

当プロジェクトでは、ポスター等のグラフィックデザインと企画展の冊子の基本デザインを担当した。

谷口吉郎・吉生記念金沢建築館 第3回企画展デザイン 「金沢のチカラー重層する建築文化ー」 ポスターと冊子デザイン



企画展

「金沢のチカラ」表紙

【委託者】	金沢文化振興財団
【期間】	2020年9月—2021年3月
【研究体制】	プロジェクト型
【担当教員】	畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】	頼安 礼市 環境デザイン大学院修士課程 デザイン専攻1年 宮川 歩子 環境デザイン専攻3年 深田 詩織 環境デザイン専攻2年
--------	---

【開発日程】	2020年 9月2日 オリエンテーション 9月18日 ポスターデザイン案検討開始 10月7日 ポスタープレゼンテーション 1回目（デザイン案絞り込み） 11月25日 ポスタープレゼンテーション 2回目（詳細確認） 11月27日 ポスター最終案決定 12月16日 冊子デザイン案検討開始 2021年 1月22日 冊子プレゼンテーション 1回目（デザイン案絞り込み） 2月10日 冊子プレゼンテーション 2回目（詳細確認） 2月22日 冊子最終案決定
--------	---

146

歴史都市金沢の「冬の風物詩」である雪吊りや薦掛けといった、金沢市特有の暮らしに根ざした景観について、これら冬の設えを準備段階から設置及び取り外しに至るまでの流れを、取材及び記録撮影し、庭園や街並みの冬景色と合わせて美しい映像にまとめた。ロケ地は、長町景観地区（長町武家屋敷跡）を基本とし、暮らしに根ざした冬の風物詩の魅力を効果的に伝えるよう工夫した。

金沢「冬の風物詩」映像制作



【委託者】
金沢市 都市整備局 景観政策課

【期間】
2020年9月—2021年3月

【研究体制】
プロフェッショナル型

【担当教員】
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】
倉 雅晴 大学院デザイン科 視覚デザインコース1年

【協力】
株式会社 電通西日本 金沢支社

【開発日程】

2020年

- 9月9日 事前相談
- 10月1日 担当課よりオリエンテーション
- 10月8日 映像制作予算確定
- 10月21日 映像コンテ送付
- 10月27日 担当課と映像コンテ、スケジュール打合せ
- 10月30日 撮影スケジュール提案
- 11月24日 ロケハン
- 12月4日 長町雪吊り、職人大学校にてこもあみ撮影
- 12月5日 長町薦（こも）掛け撮影 市長視察

2021年

- 2月19日 雪景色撮影など
- 3月13日 薦（こも）はずし撮影
- 3月31日 納品



撮影状況



撮影打合せ

147

かなざわエコフェスタ 2020

視覚デザイン専攻1年生の使用済みダンボールを使っての作品制作は私が今年で定年になるので今回が最後の担当となった。今年度の展示はコロナ禍で従来の金沢駅東もてなしドーム地下広場ではなく金沢市役所第2庁舎で行われ、これまで24年間で制作された学生作品全488点の映像も流した。

初めて制作した1997年はまぐれで素敵な作品ができたのだらうと思っていたが、2年目、これはメッセージのある立派なアート作品だと思い3年目からは学内の展示ホールで展示し始めた。十数年も続けているとTV-CMのように時代を写す鏡の様な作品が次々に出てきた。金沢市からエコに関するイベントが企画された時から金沢芸術村に展示していただくようになった。北陸新幹線開業後、金沢駅東もてなしドーム地下広場で展示していただく様になり、首都圏はもとより日本全国、世界から訪れる方々に本学視覚デザイン専攻の存在を知っていただく発信の場所ともなっている。次年度以降もこの展示が続くよう願っている。



展示風景



展示風景

【委託者】

金沢市 環境局 温暖化対策室

【期間】

2020年7月～12月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

工藤 俊之 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

青山 豊野	視覚デザイン専攻1年
赤松 弥彦	視覚デザイン専攻1年
麻生 香凜	視覚デザイン専攻1年
足立 音羽	視覚デザイン専攻1年
伊藤 菜々葉	視覚デザイン専攻1年
伊藤 優	視覚デザイン専攻1年
伊藤 優汰	視覚デザイン専攻1年
大谷 周	視覚デザイン専攻1年
乙幡 向日葵	視覚デザイン専攻1年
梶崎 有花	視覚デザイン専攻1年
相良 実和	視覚デザイン専攻1年
佐藤 璃青	視覚デザイン専攻1年
角田 優紀	視覚デザイン専攻1年
多賀 絵里衣	視覚デザイン専攻1年
竹萬 拓人	視覚デザイン専攻1年
中尾 蘭	視覚デザイン専攻1年
中村 侑芽奈	視覚デザイン専攻1年
溝口 佳菜	視覚デザイン専攻1年
宗像 紗未	視覚デザイン専攻1年

【開発日程】

2020年

7月20日 オリエンテーション

7月20日～31日

自宅・下宿にて制作

8月1日 リモートにて

プレゼンテーション

8月6日～11月20日

美大色彩実験室に保管

11月21日 金沢市役所第2庁舎へ搬入

11月22日～27日

かなざわエコフェスタ2020

で展示

11月27日 撤収後、戸室リサイクルプラザ

に搬入再展示



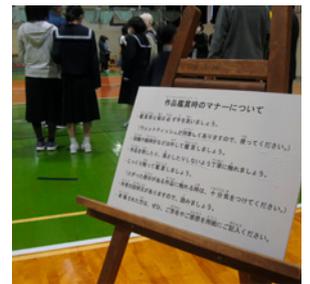
搬入時の参加学生

148

石川県立盲学校 「触れてみる彫刻展」

本展覧会は視覚に障害がある児童生徒の身近な場所に彫刻作品を展示することで、時間をかけてゆっくりと作品を鑑賞する機会を設けることを目的とし、例年は石川県立盲学校の文化祭を挟んだ時期に、本学彫刻専攻の学生の作品を展示するものであるが、本年度はコロナ禍に伴い、感染対策に万全を期し北陸日彫会と合同で1日限定の開催となった。この展覧会は平成19年度から毎年開催しており、継続的に取り組むことで、視覚に障害がある児童生徒も鑑賞力が向上し、美術に親しむよい機会となっている。

1日限定ではあるが、この状況下で開催できたことに意義を感じる。



【委託者】

石川県立盲学校

【期間】

2020年6月—12月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻

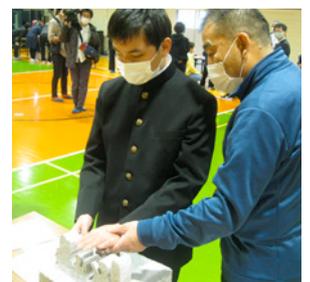
【参加学生】

関谷 留生 彫刻専攻2年
 矩 万穂 彫刻専攻2年
 千賀 匡 彫刻専攻2年
 星谷 早紀 彫刻専攻2年

【開発日程】

2020年

6月16日 盲学校大谷教諭
開催打ち合わせ
 9月14日 北陸日彫会と合同開催案連絡
 11月24日 盲学校江川校長より
「触れてみる彫刻展」の開催に
ついて（依頼）
 12月2日 作品リスト
出品者の解説文送付
 12月7日 作品搬入・展示
鑑賞会 作品搬出



133 ➤➤ 139

133	「JAPAN プライドポテト 金沢の甘えび」 パッケージデザイン提案	16
134	「これからのエンターテイメント」 自身のビジョンを掘り下げてエンターテイメントの未来を洞察	17
135	「将来、これだけは創りたい」というモビリティの提案	18
136	新しい価値を持ったメガネフレームのデザイン研究 個人課題「自分のかけたいメガネ・あの人にかけてほしいメガネ」 チーム課題「メガネの新しい売り方、買い方、関わり方」	19
137	「マウス・フェイスシールド」のデザイン研究	20
138	ビルサービスにおける UX アイデア展開	21
139	石巻レインボーハウス ワークショップのデザインと実施	22

133

「JAPAN プライドポテト 金沢の甘えび」 パッケージデザイン提案

湖 JAPAN
プライドポテト

Japan is a nation of proud culture and tradition. This pride in heritage drives Kaikeya, a business rich in history, in our mission to deliver the most delectable flavors to you.

金沢の甘えび

甘えびの濃厚な旨みを
平釜炊きの塩で引き立てた、
コク深い味わい。

売上の一部を「金沢市の木の文化都市に関する事業」と
「金沢美術工芸大学への 美大研究教育基金」へ寄付します。



※パッケージデザインは3種類ございます。 ※商品写真はイメージです。

湖池屋 JAPAN プライドポテトは「日本の誇り」をプライドポテトにのせて発信することで、日本の風土・文化により育まれてきた歴史や精神に象徴される、日本の素晴らしさを世の中に広めるプロジェクトで、これまで複数の地域で発売しており今回は金沢の魅力「伝統とアートの街」の認知拡大をコンセプトに、金沢美術工芸大学の学生にデザイン提案をしてもらい共同で金沢を盛り上げたいと依頼があった。

味の方向性は金沢を代表する甘えびに決定し、そのイメージも考慮しデザインを進め、最終的に3案が採用され全国発売が決定した。なお、売上の一部は、金沢市と金沢美術工芸大学教育研究基金へ寄付されることになった。今回のプロジェクトが好評であり、次年度も継続することが決定している。



デザインした学生



記者発表

【委託者】
株式会社湖池屋

【期間】
2020年2月—9月

【研究体制】
プロジェクト型

【担当教員】
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

井手 美月	視覚デザイン専攻3年
岩田 章之介	視覚デザイン専攻3年
浦田 朋佳	視覚デザイン専攻3年
表 千聖	視覚デザイン専攻3年
親衛 雄行	視覚デザイン専攻3年
加納 楓花	視覚デザイン専攻3年
日下部 綾音	視覚デザイン専攻3年
坂本 あゆみ	視覚デザイン専攻3年
笹岡 芳成	視覚デザイン専攻3年
佐藤 柚花	視覚デザイン専攻3年
澤田 麻由子	視覚デザイン専攻3年
田嶋 千寛	視覚デザイン専攻3年
出口 遥菜	視覚デザイン専攻3年
原嶋 妙英	視覚デザイン専攻3年
原田 紗矢香	視覚デザイン専攻3年
細江 美結	視覚デザイン専攻3年
山根 萌花	視覚デザイン専攻3年
脇田 彩花	視覚デザイン専攻3年
東 百合恵	視覚デザイン専攻2年
行本 美晴	視覚デザイン専攻2年
米原 奏衣	視覚デザイン専攻2年

【開発日程】

2020年

2月6日	美大にて、オリエンテーション
2月27日	湖池屋ご担当と市役所都市整備局、農林水産局へ協力要請
3月3日	学生からの提案締め切り、湖池屋へ送付
3月4日	データ修正作業
3月24日	選考結果及び選考された学生のデータ修正依頼
3月26日	最終方向性確認、3名に最終データ作成依頼
4月1日	最終データ送付
4月24日	提案デザイン修正バージョン、3名のデザイン完成
5月~7月	データ最終調整、印刷色校正など
8月7日	店頭販促ツールデザイン確認
9月4日	市役所にて新商品発表会(山野市長、佐藤社長、山崎学長同席)
9月7日	全国コンビニエンスストア発売
9月14日	全国スーパーマーケット、ドラッグストアなど一般店発売



プロジェクトに参加した学生たち



市役所売店での販売

134

「これからのエンターテインメント」 自身のビジョンを掘り下げて エンターテインメントの未来を洞察

スカパー JSAT と本学が新しいエンターテインメントを創り出すために産学連携で共同研究を実施。メンターには元 IDEO のインダストリアルデザイン・ディレクターの David Tonge をはじめ、世界的に活躍しているデザイナーの詫摩智朗、丸山幸伸、井手裕紀が指導にあたる。デザイン開発体制は、製品デザイン専攻の学生 13 名がメンターとチームを組み、各メンターの下で「これからのエンターテインメント」の研究開発を行った。現在、社会は飛躍的なテクノロジーの進化に伴い、大きく変動し続けている。人々の暮らしや価値観も大きく揺れ動いている。まずは、個人が自身のビジョンを作り上げ未来を洞察することで「これからのエンターテインメント」が見出されると考えて「VISIONARY THINKING」を試行し方向性を探った。



しいのき迎賓館で展示



展示



これからのものづくりに関して座談会動画上映

[委託者]

スカパー JSAT 株式会社

[期間]

2020 年 4 月—12 月

[研究体制]

授業導入型

[担当教員]

河崎 圭吾 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

メンター	David Tonge	The Division
リーダー	竹本 頌梧	大学院 製品デザインコース1年
メンター	丸山 幸伸	株式会社日立製作所
リーダー	岩井 優典	製品デザイン専攻 3年
	関根 理人	製品デザイン専攻 3年
	古路 萌絵	製品デザイン専攻 3年
	名和 かのん	製品デザイン専攻 3年
メンター	詫摩 智朗	ソニー株式会社
リーダー	藤井 香菜子	製品デザイン専攻 3年
	坂元 ゆりの	製品デザイン専攻 3年
	中山 綾鈴	製品デザイン専攻 3年
	松尾 龍成	製品デザイン専攻 3年
メンター	井手 裕紀	日本電気株式会社
リーダー	大西 崇仁	大学院 製品デザインコース1年
	森岡 さくら	製品デザイン専攻 3年
	塚 竜之輔	製品デザイン専攻 3年
	市川 真莉	製品デザイン専攻 3年

[開発日程]

2020 年

4月8日	調査・分析
4月16日	アイデア展開
5月7日	デザイン検討
5月25日	デザインブラッシュアップ
6月5日	プレゼンデータ制作
6月12日	最終プレゼンテーション
12月6日~12日	しいのき迎賓館にて展示開催
12月6日	オープニングイベント基調講演 林信行 本学客員教授
12月12日	講評会&講演会 落合陽一 本学客員教授



デザインプロセス展示



落合陽一氏にオンラインでプレゼンテーション&講演会

135

「将来、これだけは創りたい」という
モビリティの提案

しいのき迎賓館で展示

[委託者]

スズキ株式会社

[期間]

2020年4月—12月

[研究体制]

授業導入型

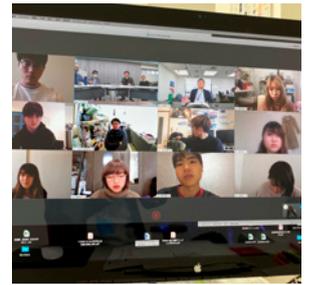
[担当教員]

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

メンター	服部 泰幸	スズキ株式会社
リーダー	坂田 七海	製品デザイン専攻3年
	黒田 絢子	製品デザイン専攻3年
	後藤 采蘭	製品デザイン専攻3年
メンター	小笹 哲哉	スズキ株式会社
リーダー	金丸 侑平	製品デザイン専攻3年
	鬼丸 拓也	製品デザイン専攻3年
	諸井 千倅	製品デザイン専攻3年
メンター	結城 康和	スズキ株式会社
リーダー	鈴木 凱道	製品デザイン専攻3年
	石塚 聖吾	製品デザイン専攻3年
	近藤 桃子	製品デザイン専攻3年

「将来のキャリアの中で最も重要な仕事となる1台として、ぜひとも世の中に出したい。これだけは人に乗ってもらいたいモビリティ」を考え、将来スズキが提供するべき新しい体験価値や生活を豊かにするデザインを検討した。今年度は新たにビジョナリーシンキングの手法で研究を進化させた。この考え方は、10年後の社会と暮らしの在り方、価値感変化を洞察し、そこから生まれるニーズの仮説から次の製品やサービスを導出する「バックキャスト」を用いたビジョン駆動型の開発プロセスで、魅力ある価値を創造デザインするもので、3名のプロのデザイナーをメンターに迎え、学生の教育と共に研究を進めた。



プロジェクトはリモートで進行。



デザインプロセス展示

[開発日程]

2020年

4月8日	調査・分析
4月16日	アイデア展開
5月7日	デザイン検討
5月25日	デザインブラッシュアップ
6月5日	プレゼンデータ制作
6月12日	最終プレゼンテーション
12月6日~12日	しいのき迎賓館にて展示開催
12月6日	オープニングイベント 基調講演 林信行 本学客員教授
12月12日	講評会 & 講演会 落合陽一 本学客員教授



これからのものづくりに関して座談会動画上映



落合陽一氏にオンラインでプレゼンテーション & 講評会

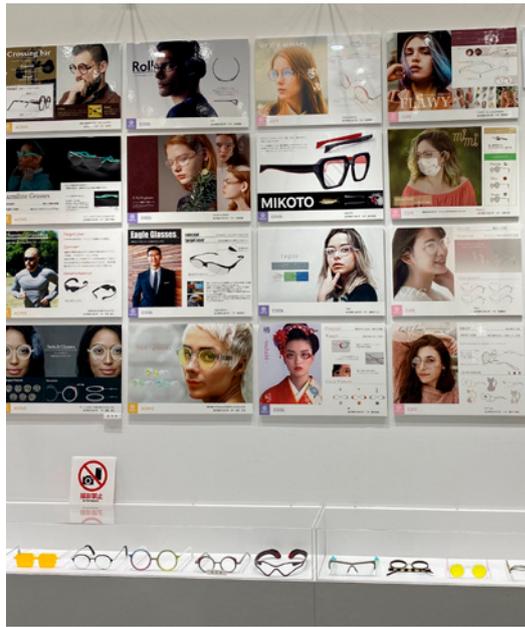
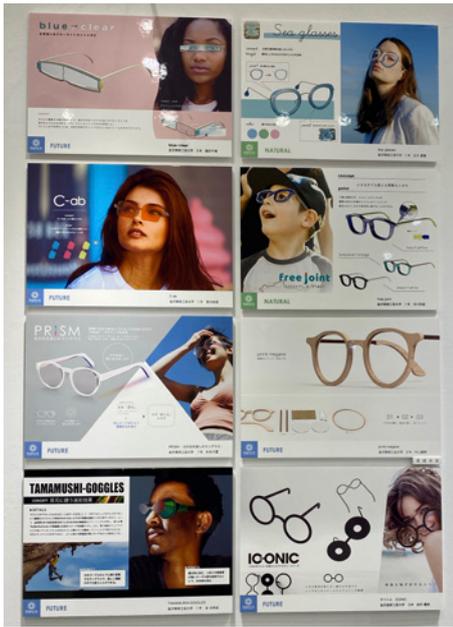
136

新しい価値を持った メガネフレームのデザイン研究

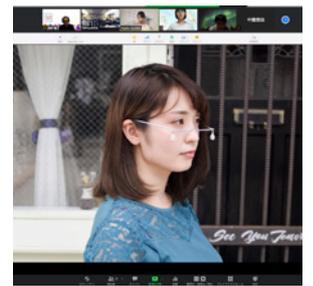
個人課題「自分のかけたいメガネ・あの人にかけてほしいメガネ」
チーム課題「メガネの新しい売り方、買い方、関わり方」

福井県眼鏡協会との産学連携は今年で19年目。他大学では類を見ない学生主体の「メガネ部」部活動としての受け入れ体制で、情報の引き継ぎ、ノウハウの蓄積、上級生から下級生への専門的なデザイン指導等、年々研究が深化している。

今年度テーマは昨年同様「自分のかけたいメガネ・あの人にかけてほしいメガネ」を28案提案した。また、近年、消費者のニーズがモノからコトへシフトしているコトを踏まえ、本年度から新たにチーム課題として、「メガネの新しい売り方、買い方、関わり方」をテーマにサービスデザインの提案も行った。コロナ禍でのプロジェクトは全てオンラインでの開催となったが、例年以上の成果を上げることができた。



オンラインで最終プレゼンテーション



提案作品

[委託者]

一般社団法人 福井県眼鏡協会

[期間]

2020年5月—2021年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

部長 中園 悠佳 製品デザイン専攻4年
副部長 中山 綾鈴 製品デザイン専攻3年

CUTE班

リーダー 黒田 絢子 製品デザイン専攻3年
メンバー 坂元 ゆりの 製品デザイン専攻3年
金丸 侑平 製品デザイン専攻3年
仲座 華那 製品デザイン専攻1年
成瀬 真歩 製品デザイン専攻1年
瀧本 千穂里 製品デザイン専攻1年
安野 花菜 芸術学専攻2年
水野 和真 製品デザイン専攻4年
野副 双葉 製品デザイン専攻4年

COOL班

リーダー 森岡 さくら 製品デザイン専攻3年
メンバー 鈴木 凱道 製品デザイン専攻3年
古路 萌絵 製品デザイン専攻3年
歌野 実 製品デザイン専攻1年
喜多 純平 製品デザイン専攻1年
藤田 桃歌 製品デザイン専攻1年
北野 実優 製品デザイン専攻1年
藤島 佳那子 製品デザイン専攻4年
和田 さつき 製品デザイン専攻4年

ACTIVE班

リーダー 坂田 七海 製品デザイン専攻3年
メンバー 松尾 龍成 製品デザイン専攻3年
菅原 菜月 製品デザイン専攻1年
本間 智大 製品デザイン専攻1年
尾田 千恵美 視覚デザイン専攻2年
松本 梓 視覚デザイン専攻2年
安武 詩織 製品デザイン専攻4年
菅沼 佑哉 製品デザイン専攻1年

NATURAL班

リーダー 後藤 采蘭 製品デザイン専攻3年
メンバー 名和 かのん 製品デザイン専攻3年
藤井 香葉子 製品デザイン専攻3年
正木 夏穂 製品デザイン専攻1年
小林 咲輝 製品デザイン専攻1年
市川 玲音 製品デザイン専攻1年
岡本 直也 研究生
松島 望 工芸科4年
富田 文香 製品デザイン専攻4年

FUTURE班

リーダー 中山 綾鈴 製品デザイン専攻3年
メンバー 岩井 優典 製品デザイン専攻3年
諸井 千倅 製品デザイン専攻3年
菊池 祐菜 製品デザイン専攻1年
杉本 千夏 製品デザイン専攻1年
谷水 彩紀 製品デザイン専攻1年
澤本 泉美 製品デザイン専攻4年
中園 悠佳 製品デザイン専攻4年

[開発日程]

2020年
5月14日 オリエンテーション・調査・分析
5月26日 テーマ決め、グループ分け・アイデア展開
7月15日 中間発表
7月16日 デザインブラッシュアップ
8月20日 産地デザイナーとの意見交換会
8月21日 最終CG作成、モデル制作
9月11日 最終プレゼンテーション
9月12日 オープンキャンパスでの活動紹介
10月15日 講評会、メガネ部2020表彰
最優秀賞：中山 綾鈴
優秀賞：菅原 菜月
チーム賞：FUTURE班



提案作品



優秀賞モデル(上)と最優秀賞モデル(下)

138

ビルサービスにおける UX アイデア展開

ビルに関わる人（利用する人・管理する人・出入りする人）がより良い経験・価値を得るための、ビルを活性化する製品・サービスのアイデアを創出するための共同研究である。

ワークショップではビルに関する調査や分析からアイデアを抽出し共有した。スケッチとモデルによるアイデア展開を行い、中間発表会においてコンセプトを決定した。現場での実験と検証を重ねながら改良を加え、コンセプトと UX アイデアを精査した。最終発表会において、三菱電機デザイン研究所と本学をオンラインで繋ぎ、学生の発表内容を企業デザイナーの皆さんにも伝えることができた。

人口減少や IoT 化、都市のスマート化、コロナ禍など、これまでの状況が大きく変化する環境において、ユーザーが求めるもの・こと・価値感の変化からビルに求められていることを反映する提案としてまとめた。



ワークショップ



アイデア展開

【委託者】

三菱電機株式会社 デザイン研究所

【期間】

2020年7月—2021年3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

村中 稔 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】

石塚 聖吾	製品デザイン専攻3年
市川 真莉	製品デザイン専攻3年
岩井 優典	製品デザイン専攻3年
鬼丸 拓也	製品デザイン専攻3年
金丸 侑平	製品デザイン専攻3年
黒田 絢子	製品デザイン専攻3年
後藤 采蘭	製品デザイン専攻3年
近藤 桃子	製品デザイン専攻3年
坂田 七海	製品デザイン専攻3年
坂元 ゆりの	製品デザイン専攻3年
鈴木 凱道	製品デザイン専攻3年
関根 理人	製品デザイン専攻3年
塚 竜之輔	製品デザイン専攻3年
中山 綾鈴	製品デザイン専攻3年
名和 かのん	製品デザイン専攻3年
藤井 香菜子	製品デザイン専攻3年
古路 萌絵	製品デザイン専攻3年
松尾 龍成	製品デザイン専攻3年
森岡 さくら	製品デザイン専攻3年
諸井 千倅	製品デザイン専攻3年

【開発日程】

2020年

8月5日	プロジェクト開始、オリエンテーション、事前調査依頼
10月2日	調査結果報告、ワークショップ
10月16日	中間発表会、コンセプト決定
11月6日	最終発表会
11月7日	ポートフォリオ、報告書作成



中間発表会、コンセプト決定



最終発表会

139

石巻レインボーハウス ワークショップのデザインと実施

石巻レインボーハウスは2011年の東日本大震災で家族を失った子どもたちの心のケアと心の拠り所として活動を行っている。本学の製品デザイン専攻の有志の学生たちと三谷産業が2016年よりボランティアとして「ものづくりワークショップ」を毎年開催してきた事が始まりで、2019年度よりこの活動に大学として関わることとなった。

学生たちは、ワークショップ開催全体プランの計画、準備、制作、実施までチームワークとリーダーシップを持って運営を行っている。今回は子どもたち向けに楽器作り(ギター・木琴・太鼓)保護者向けに糸掛け曼荼羅を制作した。

今年度はコロナ禍の中でワークショップの実施が不透明であり、最終的に石巻レインボーハウスと本学を結ぶ方法でオンラインで開催した。学生メンバーが昨年と同じメンバーで現地の様子やプロジェクトの背景を理解していることと、石巻レインボーハウスのスタッフの方々が現地で丁寧なサポートを行ってくれたため、子どもたちや保護者の方々に楽しんでもらえたワークショップとなった。



ワークショップの案内フライヤー



石巻レインボーハウスでの子どもたちの楽器作り



石巻レインボーハウスでの保護者向け糸掛け曼荼羅作り

【委託者】	三谷産業株式会社
【期間】	2020年6月—2021年3月
【研究体制】	プロジェクト型
【担当教員】	安島 諭 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】	市川 真莉 製品デザイン専攻3年
名和 かのん 製品デザイン専攻3年	
竹廣 三四郎 製品デザイン専攻2年	
廣瀬 由羽 製品デザイン専攻2年	

【開発日程】	2020年
6月11日	感染状況や対策の情報共有
8月11日	ワークショップ提案書作成
8月17日	開催方法の検討・情報収集
9月26日	オンラインでの開催を決定
10月6日	スケジュール・手順検討
10月10日	フライヤー制作・送付
	キット製作開始
11月6日	キット・制作マニュアル送付
11月24日	開催方法決定
11月28日	ワークショップ本番
12月7日	作り方動画制作・送付
2021年	
2月8日	記念色紙の制作・送付



楽器(ギター)完成



ワークショップの写真で構成した壁掛け記念色紙

A05 >> B05

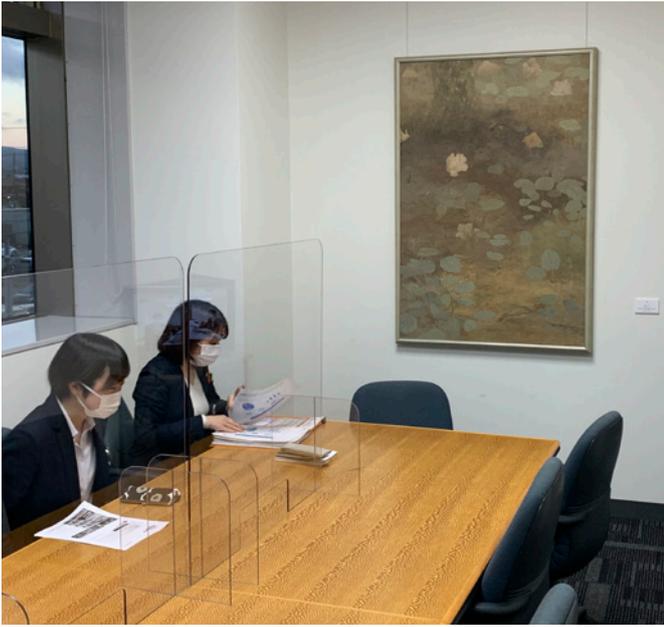
A05	北陸銀行 金沢中央支店における作品展示	24
B05	問屋町アートパーク プロジェクト コンペティション&桃源鏡制作 街づくりと街力発信を目指して	25

A05

本企画は金沢美術工芸大学と北陸銀行の連携協力に関する協定に基づき、学生の研究成果の発表の場を提供するとともに文化芸術を地域社会に発信する機会とするものである。

銀行内の応接室や会議室などに、本学修士課程絵画専攻の作品を展示することで、職場に潤いを与えると同時に、行員はもとより来客等にも絵画の鑑賞の場を提供し、豊かな芸術文化を味わう機会となっている。

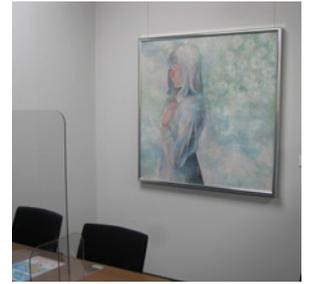
北陸銀行 金沢中央支店における作品展示



会議室風景 南野 和「庭」



展示作業



澤村 真穂「うつりゆく」

【委託者】

株式会社 北陸銀行 金沢中央支店

【期間】

2020年11月—2021年11月

【研究体制】

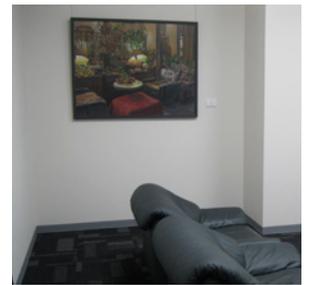
プロジェクト型

【担当教員】

石田 陽介 教授 社会連携担当理事
松崎 十朗 教授 美術科日本画専攻
三浦 賢治 教授 美術科油画専攻

【参加学生】

澤村 真穂 修士課程絵画専攻日本画1年
南野 和 修士課程絵画専攻日本画1年
桜井 旭 修士課程絵画専攻油画1年



桜井 旭「stilllife」



桜井 旭「恋越しの夜」

B05

問屋町アートパーク プロジェクト コンペティション&桃源鏡制作 街づくりと街力発信を目指して

2010年5月に協同組合金沢問屋センターと「街づくりに関する協定」を締結し、2010年10月には「街角アートパークコンペティション」を開催した。最優秀賞として、デザイン科環境デザイン専攻3年高木吉子さん(当時)の作品が選出され、2011年4月に竣工、愛称を「mu-ku」とした。

2011年より2020年までの間、美大生が制作した5つの彫刻作品が順次展示され、街に華を添えてきた。しかし一方で、この「mu-ku」の上での展示については、そのことを前提に制作した作品ではなかったため、難しい側面もあった。

そこで2019年7月、「mu-ku」に相応しい作品を募るため、コンペティションを開催することになり、2019年12月に大賞として大学院修士課程彫刻専攻1年小林美波さん(当時)の「桃源鏡」が選出された。

なお、審査員として金沢21世紀美術館副館長黒澤伸氏(当時)を始め、金沢問屋センターの理事や美大の教員が選出に関わっており、この場で小林さんの作品制作をオール問屋町で支えることになった。



アクリル板で割れた画面を表現した
画面のピクセルは街の勢いを表現した



コンペティション時の作品模型
当初は鏡を計画していた



プロジェクトチームの打ち合わせ時に
新聞社から取材を受ける作者の小林さん(右)

【委託者】

協同組合金沢問屋センター
問屋まちスタジオ運営協議会

【期間】

2019年7月～2021年3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻
中瀬 康志 教授 美術科彫刻専攻

【参加学生】

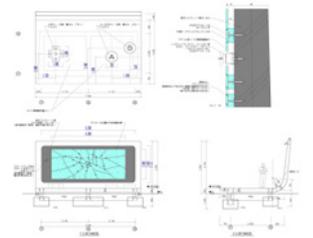
小林 美波 彫刻専攻 博士後期課程1年

【協力企業】

㈱金沢問屋センター組合員企業
株式会社五井建築研究所
コンサルティング及び
図面作成等
泰和ゴム興業株式会社
アクリル板加工・運搬等
ウィルビー株式会社
施工・部品製作等
株式会社キョー・エイ
LEDライト調達

【開発日程】

2019年
7月 問屋町「mu-ku」
アートコンペティション
12月 作品審査
2020年
2月 制作協力プロジェクトチーム
発足
4月 鏡の表現方法を検討開始
7月 作品一部修正や石彫加工開始
11月 石彫移設
12月 アクリル板加工開始
2021年
2月 アクリル板描画開始
3月 作品完成



制作途中での図面
大型作品だがミリ単位の精度が求められる



ソーラー充電式のLED照明も設置
ゲーム機から光が漏れる様子も表現した



[2020 年度 社会連携センター会議]

社会連携担当理事 ———— 石田 陽介

社会連携センター長 ———— 安島 諭

事務局次長 ————— 布島 宏胤

地域連携部門長 ———— 岩崎 純

産学連携部門長 ———— 北村 賢哉

知財管理部門長 ———— 根来 貴成

事務局 ————— 宇於崎 竜介

特任研究員 ————— 野村 昌史

[報告書制作]

編集・アートディレクション — 野村 昌史

編集協力・版下製作 ———— 株式会社 斉藤慶デザイン研究所

印刷 ————— 株式会社 山田写真製版所

発行 ————— 公立大学法人 金沢美術工芸大学
〒920-8656

石川県金沢市小立野 5 丁目 11 番 1 号

TEL 076-262-3531

FAX 076-262-6594

<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

発行日 ————— 2021 年 6 月

本書の全部または一部を無断で複写・複製することを禁じます。